



ダンスカンパニー「金魚」
新作『HEAR』金沢滞在制作および初演

タイトル	金魚(鈴木ユキオ)「HEAR」		
作品クレジット	振付・演出・美術:鈴木ユキオ 出演:鈴木ユキオ・安次嶺菜緒・福留麻里・横澤祥太郎 アニメーション:辻直之 音楽:内橋和久 映像:山田晋平 照明:加藤泉 音響:牛川紀政 舞台監督:鈴木康郎+鴉屋 宣伝美術:市川敦子 宣伝写真:畑嶋信輔		
日時	レジデンス期間:2010年8月9日(月)～22日(日) 公演日時: 2010年8月21日(土) 18:00開演(17:30開場) 22日(日) 15:00開演(14:30開場) ※公演終了後、両日ともアフタートークあり		
会場	金沢21世紀美術館 シアター21		
料金	前売 ¥2,500 / 当日 ¥3,000 (全席自由) [友の会会員特典] ※美術館での購入時に限り1割引、学生会員は500円引きになります。(会員証とともに学生証提示) ※友の会会員は優先入場特典があります。開場の10分前にお集りください。(入場時、会員証提示)		
チケット取扱	金沢21世紀美術館ミュージアムショップ TEL 076-236-6072 チケットぴあ [Pコード:405-461] ローソンチケット[Lコード:58751]		
主催	金魚(鈴木ユキオ)、金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]		
提携	金沢湯涌創作の森	協賛	資生堂
助成	財団法人セゾン文化財団、芸術文化振興基金	製作協力	株式会社 金沢舞台、株式会社 オトムラ
認定	(社)企業メセナ協議会	協力	こどもの城 青山円形劇場
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL 076-220-2811(交流課)		

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当/黒田 事業担当/近藤、中山
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814(広報室) FAX 076-220-2806
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



レジデンスプログラム
(滞在制作)について

「金魚」と金沢21世紀美術館による新たなコラボレーション

8月9日(月)～22日(日)の2週間、鈴木ユキオ率いるダンスカンパニー「金魚」と舞台スタッフが昨年が続いて金沢に滞在し、新作『HEAR』の制作を行う滞在制作プログラム。カンパニーのクリエイション(創作)を実現するために当館ならではのフレキシブルなサポートとシアター設備や機材、宿泊場所を提供。金沢湯涌創作の森で合宿を行いながらシアター21をふんだんに使い、8月21日(土)、22日(日)には本作品を初演。2010年2月4日～6日には東京・青山円形劇場での上演を予定しています。金沢から全国の舞台へ、今年も発信します。

鈴木ユキオは2008年、振付家の登竜門「トヨタコレオグラフィアワード」でグランプリ(次代を担う振付家賞)を受賞した実力派ダンサー・振付家。リアルで生々しい身体表現にこだわり、ドキュメンタリーのような即興性をはらむダンスで注目を集めてきた。昨年6月には金沢21世紀美術館での初の試みとして、同ダンスカンパニーが2週間の滞在制作を経てグランプリ受賞者作品『言葉の縁(へり)』を発表し、その後東京世田谷区のシアタートラムで上演して好評を得ました。

“言葉”のもつイメージ、音、そして身体性にもっと入り込んでいきたい、と語る鈴木ユキオ。独特な木炭画アニメーションで世界各地の映画祭でも活躍する辻直之。即興と楽曲の境界を消し去るような独創性に満ちたアプローチを行なう音楽家、内橋和久。3人のアーティストが作り出す、限りなく自由な世界。「ダンスを超えたダンス」が金沢からスタートする。鈴木ユキオが新たな構想を持って金沢でふたたび、新作への挑戦を行います。

作品ノート

私は、いま、自由を手に入れる
身体からあふれ出すイメージを、自分のやり方で紡いでいくこと
アニメという「仮想」が、むしろ「リアル」を空間にひきずりだすのかもしれない
空間と身体と音とアニメーションと言葉と
それぞれが、それぞれの本音をひきだしクロスする
かろうじて聞きとれるものが、
こわれやすくも、とても大切なものであってほしい

ダンスとは何か?踊るとは何か? これまで「ダンス」や「舞踏」に捕われないう、必死であがってきた。実際、踊りではなかったと思う。でも、今はダンスでもありたいというか、ダンスでないけどダンスであるところ、どちらでも良いと言えるようになってきたのかもしれない。やっと、そこにこだわる必要がなくなってきたのかもしれない。

変なこだわりがなくなった時、私は自由を手に入れる。自分の身体、空気、あなたと私の距離に耳をすます。

—— 鈴木ユキオ

鈴木ユキオ
インタビュー(抜粋)

劇場をパートナーとして、クリエイションに挑む、新たな試み

Q. 金沢21世紀美術館でのレジデンス+公演について期待していることは?

鈴木: 昨年のトヨタコレオグラフィアワード受賞者公演『言葉の縁』から2回目になります。2週間劇場をフルに使い、メンバーとともに創作に没頭できる環境は、本当に重要だったと感じました。東京ではなかなかできない。作品に集中し、じっくり向かい合うこと。劇場やスタッフから大きなサポートをもらえることは、クリエイションを豊かにしてくれます。もちろん、作品にかかる時間が多ければいいかという、そういうわけではないのですが、でも、贅沢に長い時間をかけて環境をしっかりと整えて作品をつくる機会が少なすぎるんです。それを実現させてくれる、金沢21世紀美術館は、自分にとって、見えている部分である劇場という場所の魅力だけではなく、実は見えていない部分の環境を含めたサポートも含めて考えてもらえるよいパートナーだと思っています。そして、このような公演スタイルがその土地独自の企画を生み出したり、また劇場との関わり方として理想的なものの作りかたちを模索していけたらよいと思っています。

Q. 今回の作品【HEAR】についての意気込みを教えてください

鈴木: いままで、とにかく「身体でどうやって見せるか」「存在の強さ」を提示する作品を作ってきました。今回は、それに、いくつかのベクトル(アニメーション・音楽・照明・言葉)をプラスして、もっと空間として「身体」をみせたいと思っています。

私はなぜここにいるのか——これが大きなテーマです。いろいろなアプローチであぶりだされた「自分」という存在をみつめたいと思います。

【HEAR】聴くということ、は、問い続けている私そのものです

そして、舞台上では、ダンサー一人ひとりが問い続け、なにかに耳をすましていると思います。その場を、ぜひ多くの人と共有して、私の問いが、みなさんの問いにもなってくれば、うれしいですね。

プロフィール



鈴木ユキオ（ダンス）

’97年アスベスト館にて舞踏を始め、室伏鴻等の作品に参加。2000年より「金魚」として活動を開始。引きちぎれるまでに翻弄される切実な身体・ダンスと、圧倒的な空間美は、国内外から注目を集める。「ダンストリエンナーレトーキョー」「香港アートフェスティバル」「インドネシアダンスフェスティバル」に参加。また、バレエダンサーへの振付や「スピッツ」や「エゴラッピン」等のミュージシャンPV・ファッションブランド「ミナベルホネン」のカタログモデル出演等も行う。また、舞踏のメソッドを基礎にワークショップも実施。身体を丁寧に意識し、自分だけのダンスを作り出すプログラムを各地で開催している。’03年STスポットよりラポアワード受賞。’04年セゾン文化財団ネクストネクスト公演ファイナル参加。’05年度セッションハウスレジデンスアーティスト。’07年京都芸術センター舞台芸術賞2007ノミネート。トヨタコレオグラフィアワードでは、’05年にオーディエンス賞、’08年に次代を担う振付家賞(グランプリ)を受賞。

URL <http://www.suzu3.com/>



辻直之「エンゼル」2008

辻直之（アニメーション）

1972年うまれ。1995年東京造形大学美術II類卒業。3分から20分程度の木炭画のアニメーションフィルムを制作。バンコク、ソウル、ロンドン、パリなどの映画祭に出品。2004,5年と二年連続でカンヌ映画祭監督週間に招待され、その独特な木炭画アニメーションで熱烈的な支持を得る。

また、監督週間のポスターもデザインするという快挙を達成。アニメーションのほかに、イラスト、短いマンガ、野外インスタレーションなどにおいて活躍。

《個展・単独上映》

2000年／辻直之オール大百科／ギャラリー・ルデコ／東京

2007年／メディアスコープ／MOMA／ニューヨーク（上映）

2009年／風の精／小山登美夫ギャラリー京都など

《グループ展・映画祭》

1999年 スクラップ祭り／横浜 関内駅～山下公園 企画出品（2005年までに、6回開催）

2004・2005年／カンヌ国際映画祭監督週間／フランス

2008年／エモーションナル・ドローイング／東京国立近代美術館など

《チラシ》

かわなかのぶひろ＜映像の地下水脈＞シリーズなど



内橋和久（音楽）

ギタリスト、ダクソフォン奏者、コンポーザー、アレンジャー、プロデューサー。レーベル「イノセントレコード(旧 前兵衛レコード)」主宰。インプロヴィゼーショントリオ／アルタードステイツ主宰。83年頃から即興を中心とした音楽に取り組み始め、国内外の様々な音楽家と共演。活動の領域は音楽だけにとどまらず、映像作品や演劇などの音楽も手掛け、中でも、劇団・維新派の舞台音楽監督を20年以上にわたり務めている。音楽家同士の交流、切磋琢磨を促す「場」を積極的に作り出し、95年から即興ワークショップ「ニュー・ミュージック・アクション」を神戸で開始し、音楽祭、フェスティバル・ビヨンド・イノセンスを96年より毎年開催(2001年のみ休止)。近年はこれらの活動と併行してUAやぐるりのプロデュース、ツアーメンバーとしても活動。即興音楽家とポップミュージシャンの交流の必要性を説く。また、2002年から2007年までNPOビヨンド・イノセンスを立ち上げ、大阪フェスティバル・ゲート内でオルタナティブ・スペース、BRIDGEを運営したことも知られる。現在はウィーン、東京を拠点に活躍。ソロプロジェクト“FLECT”ではエレクトロハーモニクス16セカンドディレイマシンとサステナーを内蔵したゴダンのギターを駆使して、もはやギターを超越したサウンドスケープを作り上げる。一方自己のバンド、アルタードステイツや超即興では、パワーと独創性に満ちたギターのアプローチで、インプロヴィゼーション(即興)とコンポジション(楽曲)の境界を消し去っていく。近年では新楽器ダクソフォンの日本唯一の演奏者としても知られている。

画像資料

画像掲載ご希望の方は広報室までお申し付けください。



『HEAR』のためのプロモーション画像
撮影:畑嶋信輔



『HEAR』のためのプロモーション画像
撮影:畑嶋信輔



2009年「言葉の縁」
金沢21世紀美術館公演より
撮影:池田ひらく



2009年「言葉の縁」
金沢21世紀美術館公演より
撮影:池田ひらく



2009年「言葉の縁」
金沢21世紀美術館公演より
撮影:池田ひらく

滞在中スケジュール
(予定)

8月9日(月) 「金魚」、舞台スタッフ金沢入り、会場仕込み
8月10日(火)～20日(金) シアター21稽古
8月21日(土)、22日(日) 全2回公演

※公開リハーサルなど滞在中の予定はブログにて随時公表して参ります。
<http://www.kanazawa21.jp/blog/event/>

※鈴木ユキオ氏がインタビューでも語っている通り、アーティストの創作活動と金沢の環境が刺激しあい、創作プロセスを共有し、新たな作品を生み出す土壌となることを当館でも願っています。
メディアの皆様には金沢湯涌創作の森での合宿、地元との交流、プレパフォーマンス、公開リハーサルなど、滞在中の様子をできるだけオープンにすると同時にアーティストの創作環境をサポートしたいと考えています。
滞在中、さまざまな活動展開も予想されますので取材いただける機会を随時お知らせします。

※チラシ、web (<http://www.kanazawa21.jp/>) も併せてご覧下さい。

※上記プログラムについて、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

※写真をご希望の場合や当日のインタビュー及び取材をご希望の方は、広報室までお申し付けください。
お待ちしております。